

プライベートチームへの入会希望者が急増した背景にあるものとは

スポーツバイクショップを介さないプライベートチームがここまで急成長した背景には、何があるのでしょうか。リーダーの富田氏は、ビギナーが感じてしまいがちなスポーツバイクショップへの敷居の高さも関係しているのではないかと指摘します。

「ビギナーにとってスポーツバイクショップは、どうしても敷居が高く見えてしまいがちです。特に最近はインターネットでスポーツバイクやオプションパーツを購入している人も増えているので、ショップに足を運ぶことに抵抗を感じている人も多いと思います。その結果、私たちのようなプライベートチームに“気軽に楽しめる環境や機会”を求めて集まっているのではな

いでしょうか」

一方で、富田氏はハードルの高さとは反比例してスポーツバイクショップへの“期待値”が高まっているとも考えています。

「ビギナーがスポーツバイクショップに期待する点は非常に多いと思います。例えば日々のメンテナンスについて考えたときに、ビギナーとしては“パーツの購入”よりも“技術的なフォローやアドバイス”を求めています。でも、どう聞けばいいのかわからない、費用もどれくらいかかるかわからない、インターネットで購入したパーツを持ち込んでも対応してくれそうもない…といった不安な気持ちを理解して接してくれるショップであれば、結果的にスポーツバイクにかかる費用が多少上がったとしてもショップに足を運びたくなくなると思います。

こういった悩みを解消してくれるような安心感のあるショップがもっと増えれば、インターネットで購入するよりもメリットがあると感じるはずですよ」

ビギナーがショップに求める“安心して楽しめる環境”について、さらに検討する必要がありそうです。



取材に答えてくれたメンバー。(写真左から田中崇洋さん、辻川祐子さん、藤井謙次さん、リーダーの富田洋さん)



CASE 2

自転車コミュニティ・インタビュー／ケース②

大阪を舞台に繰り広げられた新たな自転車の楽しみ方

TWEED RUN OSAKA

“TWEED RUN”とは?

TWEED RUN (ツイードラン) は2009年にイギリスで初めて行われたツーリングイベント。ツイードファッションに身を包み、ロンドンの街並みをクラシクな自転車で走行するもの。世界中で盛り上がりを見せ始めている。

優雅な英国ファッションで大阪の街を賑わせたツーリングイベント

2011年2月、英国ファッションを身にまとった約50名の男女が大阪の街を自転車で巡るイベント「ツイードラン大阪」が開催されました。このイベントはアパレルメーカーや自転車メーカーといった企業が主催したのではなく、あくまで“私的”なイベント。しかし、大阪の街をツイードで走るその姿は街ゆく人の注目を集めました。翌2012年も引き続き開催され、参加者は100名を超えたそうです。

このイベントが開催されることになったきっかけについて、運営メンバーのひとりである木下氏に伺ってみました。

「ツイードラン大阪は、あるスポーツバイ

クファン達がイギリスのツイードランに興味を持ったことが始まり。イベントの中心となっているのはFM802の谷口純弘さん、スタンダードブックストアの中川和彦さん、BEAMSの谷篤人さん、digeout ART&DINERマスターの古谷高治さん、グラフィックデザイナーの星加健さん。このみなさんはスポーツバイクファンというだけでなく、ファッションやライフスタイルにもこだわりを持っている方ばかりです」

このイベントは誰でも参加できるというわけではなく、基本的に“知人の知人まで参加OK”というルールがあり、参加人数も概ね制限しているとのこと。

「誰と走っているのかわからないほど人



数が増え過ぎると“みんなで楽しく走ろう”というコンセプトから外れてしまうと思い、このルールを作りました。2013年も開催予定ですが、参加人数が年々増えているので運営面でも課題が増えると思います」



取材に答えてくれた木下智康氏。職業はイベントの企画等も手掛けるディレクター。